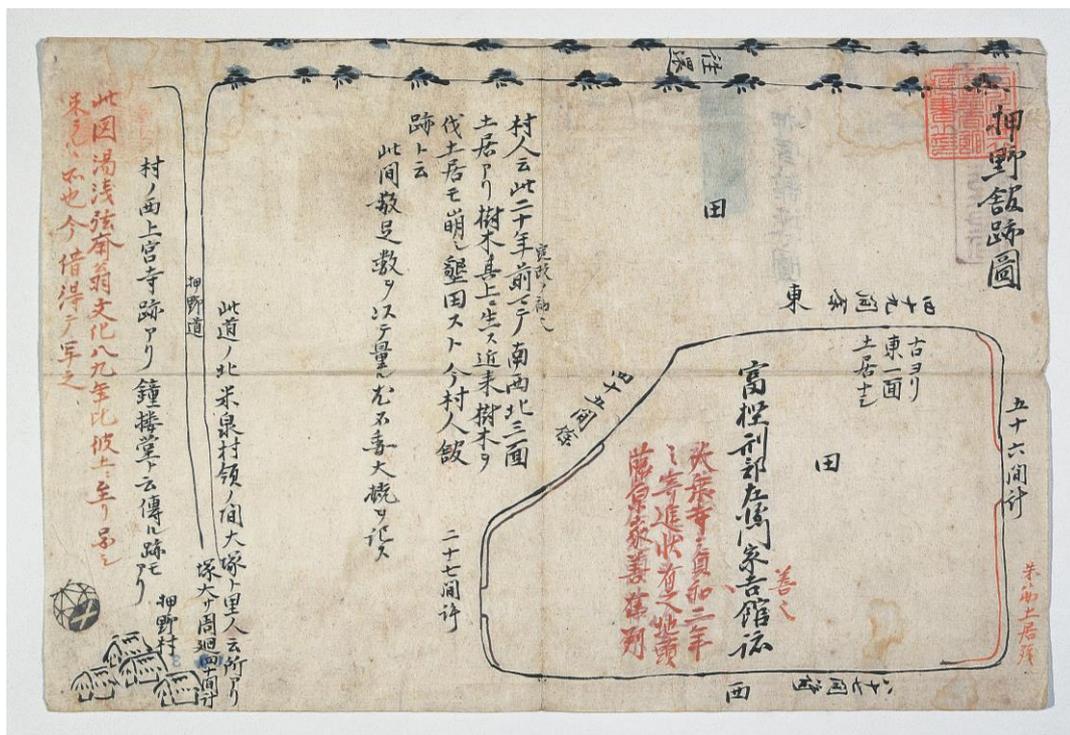


おしのやかたあと 押野館跡

押野館跡は館野小学校の南東一帯にあり、室町時代の富樫一族の館です。館主は1335年（建武2）に加賀国守護となった富樫高家の弟家善で、「押野殿」と呼ばれていました。

江戸時代の1811年（文化8）頃、加賀藩士湯浅玄斎は、当時の館の状況を絵図に描いてまとめています。絵図によると、大きさは東面49間（約88m）、南面56間（約102m）、西面87間（約158m）、北面27間（約49m）、東北面45間（約82m）で、周囲の一部には防御のための土居が記されています。

1980～84（昭和55～59）と1993・94年（平成5・6）に発掘調査が行われ、館の周りを囲む大きな堀や掘立柱建物、竪穴状遺構、井戸跡などを発見し、14世紀頃の生活道具であった瀬戸焼の壺、鉄製の鋤先などが出土しました。



押野館跡絵図 1811年（文化8）



館の内部の様子 北西より 1993年（平成5）



発掘調査遠景 南東より 1983年（昭和58）